

2017年3月28日

各位

小野薬品工業株式会社

スイス Numab 社と創薬提携契約およびオプション契約を締結

小野薬品工業株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：相良暁、以下「当社」）は、Numab Therapeutics AG 社（スイス、フェフィコン、共同最高経営責任者：David Urech, PhD および Oliver Middendorp、以下「Numab 社」）と、がん免疫領域において多重特異性抗体を創製するための創薬提携契約およびオプション契約を締結しましたので、お知らせします。

本契約に伴い、当社は、Numab 社の革新的な創薬アプローチに基づいて作製された新薬候補抗体について、その知的財産権を取得するとともに、独占的に開発・商業化するオプション権を獲得しました。

その対価として、当社は Numab 社に対して、提携期間中の研究費用を支払うとともに、契約一時金、研究および開発の進捗に応じたマイルストーン、売上高に応じたマイルストーンとして、総額で最大 2 億 5800 万スイスフランを支払います。また、売上高に応じた一桁～二桁台のロイヤルティを支払います。

当社の執行役員研究本部長である巾下広は、「Numab 社の多重特異性抗体作製プラットフォームは、優れた多重特異性を有する候補抗体を作製できるよう最適化されています。当社は Numab 社の技術ががん免疫領域における当社の創薬研究に適したものであり、この提携から創製される多重特異性抗体ががんに苦しむ患者さんに希望を与えることになると期待しています」と述べています。

Numab 社の共同最高経営責任者である Oliver Middendorp 氏は、「小野薬品は世界初の抗 PD-1 抗体オプジーボ（一般名：ニボルマブ）を開発し、がん治療に新たな道を切り開いた卓越した科学や革新的技術に基づく実績を有する企業であり、そのような企業と創薬提携を実施できることを大変喜ばしく思っています」と述べています。

Numab 社について

2011年に設立された Numab 社は、がん免疫および免疫領域において自社の多重特異性バイオ医薬品のパイプラインを有するとともに、多くの製薬企業と創薬提携契約を交わしています。詳細については www.numab.com をご覧ください。

Numab 社の多重特異性抗体作製プラットフォームについて

Numab 社の多重特異性抗体医薬品は、複数の標的を同時に制御することで、疾患における多くの治療回避機構を解決するように設計されています。Numab 社の多重特異性プラットフォームは、独立した結合特異性を有するパーツの組合せという発想に基づく、合理性と再現性に優れた技術です。その技術は、新規作用機序を有し、有効性と安全性に優れた有望な臨床用治療薬候補を迅速に作り出すものです。Numab 社は、がん免疫やその他の疾患領域における有望な標的の組合せを見出すため、医薬品を構成するパーツの品揃えを持続的に拡充しています。多重特異性プラットフォームの特徴は、新規かつ極めて安定な構造を持つユニット骨格技術に加え、その組合せにより構造的に安定で多様な多重特異性抗体を作り出すことです。これらの基盤技術を基に、Numab 社は、これまでにない多重特異性抗体医薬品を幅広く創製していくことが可能です。

＜本件に関する問い合わせ＞
小野薬品工業株式会社 広報部
TEL : 06-6263-5670
FAX : 06-6263-2950